

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.237
Jul, Aug, Sep, 2007

JID news

JID月報：通巻237号
平成19年7月・8月・9月号
発行日：平成19年9月30日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559
発行人：川上玲子

社団法人日本インテリアデザイナー協会

目次

巻頭：キッズデザイン賞・受賞

平成19年度 第2回理事会報告	2
JID創立50周年記念事業実行委員会報告	5
本部報告(国際委員会)(総務委員会)	6
// (選考委員会)	7
D-8レポート	8
MEMBER'S SALON	9
トピックス	10
支部活動報告(関東事業支部)	12
// (中部事業支部)	14
// (九州事業支部)	15
// (関西事業支部)	16

事務局からのお知らせ	17
新会員紹介	16・17

キッズデザイン賞・受賞

「総合的な学習の時間」におけるインテリア教育 教師用教則本が 第1回 キッズデザイン賞[部門賞]を受賞

副理事長 小宮 容一

経済産業省とキッズデザイン協議会は8月8日、「第1回キッズデザイン賞」の受賞作品を発表。

この賞は、子どもが安全・安心に生活できる環境を創出するため、子どもの目線で開発された製品や取り組みを表彰するものです。

「わが国の和洋混沌の生活様式から抜け出すためには、子どもの時からインテリア教育が必要である」という課題は、本部教育研究委員会の研究活動としてスタートしました。その後の本部組織改革により、関西事業支部研究委員会が「総合的な学習の時間」におけるインテリア教育として引き継ぎ、この度、小学生への実験・実習を重ねてつくり上げた教師用教則本を「キッズデザイン賞」に応募し、リサーチ部門賞[キッズデザイン協議会 会長賞]を受賞いたしました。

JIDにとっては創立50周年を目前にして名誉な受賞で

あり、JIDの活動を社会的に認知していただいたと考えています。

審査評：小・中学校におけるインテリアデザイン教育の良質な取り組みである。12のカリキュラムを持ち、現在のインテリアにおける課題の抽出から、その改善策を考えるという手法をとっている。意匠のみに走るのではない、本質的なデザイン教育の好例である。

*他の受賞作品は、キッズデザイン賞 HPをご覧ください。
<http://www.kidsdesignaward.jp/>

受賞を機会に全国で、実験・実習が展開できればと考えています。教育委員会や小学校校長等にコンタクトできる情報があればお知らせ下さい。

理事会

平成19年度 第2回理事会

日時：平成19年7月27日(金) 15:45～17:45

場所：社団法人日本インテリアデザイナー協会

OZONE 会議室

出席：理事長 川上玲子

副理事長 岩倉榮利、小宮容一

理事 安藤清、吉良ヒロノブ、酒井正人、
清家淳一、丸谷芳正、村口峯子、
山永耕平、山本棟子

監事 宇賀敏夫、川上信二

事務局 峰尾武

I 報告事項

- [1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- [2] インテリアウイーク(仮称)に関する団体長懇談会の件
- [3] その他

- 1. 平成19年度収支状況報告(6月末)
- 2. 財務運営資金繰り
- 3. リース契約状況
- 4. 会員異動状況
- 5. 平成19年度第3回理事会

平成19年9月28日(金) 15:45～17:45

II 議題

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

I 報告事項

- [1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(村口)

1. 総務委員会

7月4日支部役員会で50周年記念事業の各委員会と関東事業支部の委員会活動との連動について検討。
50周年記念事業期間中の活動メンバーが支部委員会と重なるため、すべての活動を50周年事業と連動する形で企画変更することを決定、又支部プロジェクトの新メンバー募集については50周年記念事業優先のため募集時期を検討する。

パートナーズ関東、JID-ACT kantoについても50周年記念事業とどのように連動するか検討中。

2. 事業委員会

結城市・市町村活性化事業に連動する見学ツアー企画。

3. 交流委員会

MYシリーズ企画、手作り体験「鉄の鋳物」について9月～10月にかけて4回、川口にて実施予定。

4. 研究委員会

オフィス環境をテーマにしたシンポジウム、セミナーを企画予定。

5. 広報委員会

月1回のミーティングを定例化し、関東ホームページの充実を急ぎ、各委員会活動、50周年記念事業活動状況等をWEBにて広報準備、また関東支部会員のプロフィールページ作成準備。

◆中部事業支部(安藤)

- 1. 6月9・10日 平成19年度中部事業支部総会 in 岐阜実施、岩倉副理事長出席。
- 2. 6月14日 第12回インテリア連絡会開催参加。
- 3. 6月15日 名古屋市デザイン推進事業会議参加。
- 4. 6月29日 CCDO18年度最終理事会参加。
- 5. 7月13日 「デザイン・トリプレックス Extended 2008 構想」1th 会合を予定、空間系団体合同展示会・フォーラム等、8団体会合予定(デザイン団体の約50%が空間系)。
- 6. 7月14日 CCDO 総会。
- 7. 7月25日 7月度役員会・連絡会実施。
今後の予定
- 1. 8月16日 第13回インテリア連絡会予定。
- 2. 8月20日 8月度役員会・連絡会予定。
- 3. 9月10日 9月度役員会・連絡会予定。

◆関西事業支部(清家)

1. 総務委員会

6月9日(土) 支部総会開催、出席11名、委任状22名。
6月22日(金) 本部50周年記念事業の出版委員会に関西から八十会員出席。

4月26日(火) 第2回運営委員会開催、5名、事務局1名で各委員会報告及び関西事業支部選挙管理委員会8月発足を決定。

2. 事業委員会

6月9日(土) 交流会開催26名。

3. 情報委員会

6月26日(火) 第2回情報委員会開催、e-ECHO原稿確認。

6月30日(土) 第3号 e-ECHO ホームページアップ。
支部総会、交流会、企業による重点商品説明会などの報告。

4. 研究委員会

「終のすみか」を名称変更「セカンドライフの住まい」とし、アンケート最終チェック。

「キッズデザイン」参加報告、キッズデザイン協会に関西事業支部として応募、1次、2次審査通過。

5. USD-O (大阪デザイン連合機構)

6月14日(水) USD-O 定例総会に清家支部長出席。

6. JID-ACT Kansai

6月16日(土) JID-ACT Kansai 総会開催。

今後の予定

総務委員会 8月8日(水) 第3回運営委員会開催予定。
事業委員会 第10回「企業による重点商品及び新商品説明会」8月上旬開催準備。

情報委員会 8月8日(水) 第3回情報委員会開催予定。
研究委員会「終のすみか」ー「セカンドライフの住まい」近日委員会開催予定。

「キッズデザイン」最終審査待ち。

JID-ACT Kansai 毎月1回定例会開催。

本部情報委員会関連 JID News 編集会議を8月8日開催予定。

◆九州事業支部(山永)

1. 5月19日(木) 第4回役員会開催

- 1) 平成19年度総会場所、時間等について。
 - 2) 平成19年度事業について。
 - 3) JID 創立50周年事業について。
 - 4) 九州事業支部ホームページのデザイナー新について。
 - 5) その他。
- 以上について討議。

2. 6月23日(土) 第1回役員会開催。役員5名、オブザーバーとして菅原氏(新事務局予定)出席。

- 1) 平成19年度支部総会について、事業計画、予算、進行確認。
- 2) JID 創立50周年記念事業、室内デザイン学校アンケート公表、賛助会員、正会員、ACTの会、学生のコラボレーションなどについて討議。

3. 6月23日(土) 九州事業支部総会及び懇親会を熊本にて開催。出席7名、委任6名、賛助会員3名で18年度事業報告、決算報告、19年度事業計画案、予算案等を承認。

その後、岩倉副理事長の特別講演会「生活デザイン考」を実施、参加者65名九州でデザインを学ぶ学生に非常に刺激になった。

4. 7月23日(土) 2007大川夏の彩展の家具審査委員長に飯田支部長参加。

◆本部総務委員会(丸谷)

6月18日、7月16日に委員会開催

1. 第39回通常総会懇親会開催、出席者58名(来賓6名、会員52名)について収支黒字と報告。
2. 福利厚生プラン「ベネフィット・ワン」新規加入募集、

新規加入者3名。

3. 19年度 JID ビジネスパートナーズ活動計画について
賛助会員へは、状況報告を継続。

JID News (NO.236号に利用状況掲載)、E-MAIL ニュース等、広報活動に取り組む。

今後も本部総務委員会が、定着に向け活動継続。

4. 会員拡大

過去5年間の会員異動状況実績報告、50周年記念事業を迎えるに当たり新入会員入会を促すチャンスととらえ、実地に向けて具体策(インターシップ制度の可能性等)を検討。

◆本部国際委員会(酒井)

1. IFI2007 釜山

10月釜山で開催のIFI総会とデザイン会議にリンクした「釜山デザインツアー」を発表、JID ニュースに同封。ツアー希望者に8月7日に説明会を予定。

協会代表者を小宮容一副理事長、小野由記子本部国際委員長、塚口眞佐子関西事業支部国際委員の3名に決定。

2. WING へ学生参加

IFI企画による学生とヤングデザイナーを対象にしたワークショップ WING が7月3日から12日にかけて釜山 Dongseo University で開催され、105人の学生が環太平洋エリアから参加、日本からは文化女子大学・住環境学科4年生6名参加、報告はJID ニュース次号に掲載予定。

3. 国際交流

「中華人民共和国、香港特別行政区設定10周年記念」レセプションが6月27日帝国ホテルで開催され、酒井国際担当理事と小野委員長が出席。

香港デザイン協会より昨年に続きJIDにAPIDA(アジアパシフィックインテリアデザインアワード)の後援団体にと要請が来ている。現時点での依頼はAPIDAのイベントをJIDのHPで紹介し、メンバーにアワードへの参加を呼びかけて欲しい旨。また、JIDのロゴマークを広告媒体に載せ、JIDのHPをHKIDAやAPIDAのHPにリンクするとの申し出あり。

昨年同様、アワード審査の依頼、受賞式への出席の依頼へと続くことが予想される。JIDとしてはAPIDAの活動後援等、この案件は昨年同様、香港貿易発展局(東京)を通じて行う予定。

その他、香港デザインセンターからは別途DFAAアジアデザイン大賞へのノミネートの依頼があり、これはすでにE-mail Newsにて案内済み。

4. 国内交流

JIPAT国際委員会から、11月に開催されるIPECにおいて海外事情に詳しい講師を囲みでのサロン風の

交流会を開催する際の協力依頼を受けている。

◆本部情報委員会 インターネット(吉良)

1. 平成 18 年度事業報告・決算報告及び平成 19 年度事業計画・予算案を Web に 8 月上旬掲載予定。
2. JID 創立 50 周年記念事業実行委員会との協働推進、及び同情報を Web 掲載推進。
3. 本部・支部トップページのデザインイメージ統一化推進(継続)、各支部宛サンプルデータ配布予定。
4. 新ホームページについてコンテンツの充実を図る。(継続)
5. 支部ページとの連携推進。(継続)

◆本部情報委員会 JID News(清家)

1. JID ニュース 236 号を 6 月末発行完了。
2. 次回 237 号 8 月末一次、9 月 4 日最終原稿締切で 9 月 18 日最終編集会議、9 月末発行予定。
3. 会員よりの広告掲載依頼の件があり検討、記事の内容により活動記録の場合は無料、完全広告の場合は有料とする、但し報告記事を優先し掲載号の指定はできない。広告料金案はあるが尚検討。

◆選考委員会(岩倉)

1. 2008 JID 賞の応募状況
インテリアスペース部門 …………… 147 点
インテリアプロダクト部門 …………… 34 点
インテリア研究・著作・業績部門 … 6 点 合計 187 点
2. 応募点数の推移
前は 236 点但し 3 年分であった、今回は 2 年分で前回の 2 年分換算で考えると、30 点上回ったことになり満足の点数であった。
3. 審査は第 1 回を 8 月 9 日に予定、最終審査を 10 月 17 日(水)に予定。

◆事業推進(小宮)

1. 各本部委員会の事業を推進。
2. 今後の方針
理事、会員が次第に「50 周年記念事業」の知力・体力を注ぐことになるが、本部・支部が常の年度に実施して来た協会のため、会員のための事業が疎かにならないように、逆に、この機会を捕らえてプレイベントなどを企画・開催して、JID 活動を活発化し、外部に向かって盛り上げるよう、「事業推進」から喚起する。

◆4 支部統括(安藤、村口)

今後事業推進と協力支部間事業調整等行う。

◇メディカル・アメニティ・サポートプロジェクトについて
小野由記子会員からの提案で、仮称「メディカル・アメニティ・サポートプロジェクト・運営会」設立の提案につい

て酒井国際担当理事より説明があり審議の結果、関東事業支部研究委員会を窓口として行うことを了承。

◇社団法人商業施設技術者・団体連合会団体会員入会の件

前回の理事会で入会承認となっており、8 月中に入会手続きをとるが、会員としては正式には 20 年度からとなる。

[2] インテリアウィーク(仮称)に関する団体長懇談会の件

社団法人国際家具産業振興会からの呼びかけで、インテリアウィーク(仮称)についての意見交換を、日本インテリアファブリックス協会、インテリア産業協会、日本インテリアプランナー協会、日本インテリアデザイナー協会、国際家具産業振興会の各代表者による意見交換を 6 月 25 日に行った。

今後インテリアウィーク会議とし継続していくこととなったと川上理事長及び岩倉副理事長より報告。

[3] JID 創立 50 周年記念事業実行委員会について川上実行委員長より報告。

[4] その他

1. 財務運営資金繰りについて事務局長より報告。
2. 事務局パソコンプリンター等リース更新を実施、リース料関係について事務局長より説明。
3. 次期理事会(平成 19 年度第 3 回理事会)を平成 19 年 9 月 28 日(金)に開催決定。
4. 年間会員異動状況について事務局長より報告。

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

Ⅱ 議題

◆第 1 号議案

後援・協賛名義承認の件(7件)

- 『IPEC-2007』 <特別協賛・継続>
- 『第 6 回暮らしの中の木の椅子』展 <後援・継続>
- 平成 19 年度地域有望産品輸出・産業育成支援プログラム <専門家派遣推薦・継続>
- インテリアトレンドショー『第 26 回 JAPANTECH2007』 <協賛・継続>
- 『日経住まいのリフォーム博 2007』 <協賛・継続>
- 『2007 東京国際家具見本市』 <後援・継続>
- 『第 3 回国際インテリアホームファッションフェア秋 2007』 <協賛・継続>

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第2号議案

会員入退会承認の件(6件)

●正会員 入会(2件)

小林雄二(関東) 推薦人:渡辺英行、峰尾武

牧尾晴喜(関西) 推薦人:清家淳一、峰尾武

●賛助会員 入会(2件)

コクヨオフィスシステム株式会社(関東)

推薦人:清家淳一

安藤建設株式会社(関東)

推薦人:高島屋スペースクリエイツ株式会社

●正会員 退会(2件)

0907 渡辺英行(関東) 0794 木谷賢治(関西)

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第3号議案

議事録署名人選任の件

議長は山永耕平理事、安藤清理事の承認を諮り、異議なく承認された。

社団法人日本インテリアデザイナー協会 平成19年度第2回理事会に関し、定款第26条に基づき、議事経過及び議決事項を記すため、議長と議事録署名人が記名捺印する。

議長 川上玲子

議事録署名人 山永耕平、安藤清

原点

こころのデザイン



各委員会からのメッセージ

出版委員会

委員長 安藤 清

2006年関西事業支部にご足労かけたワーク集が撤回され、50周年記念出版に持ち越され、その折の約束の個人代表作の1作品の掲載に関し掲載料の見直しが必要。若い会員の方々は個人のHPの発信で十分との意見あり。会員中8割の作品集、2割の名簿と全員参加の呼びかけをする。

40周年「日本の生活デザイン」誌の以降、剣持さんから現代までをアーカイブし、さらに今後の展望に結び、JIDのブランドアップのメッセージを盛り込む。

著名人vs理事長対談・著名人からの寄稿・多種多様な会員のスタンス別層別・JID賞・インテリア四方山話・インテリア学校・・・JID50年のしてきたこと、これからの事など、日本のインテリアを牽引してきた証としてインテリアに興味ある一般大衆をターゲットにしたい。

JID室内デザイン学校委員会

委員長 山本 棟子

JID50の「室内デザイン学校」ってなんだろう？

JID創立50周年記念事業は2008年の新年会でキックオフされ、2009年春までいろいろな企画が予定されます。

JID室内デザイン学校委員会では、「原点」—こころのデザイナー—の企画趣旨に基づき、皆様のアンケート回答等も参考にして、「JID室内デザイン学校」計画の検討を重ねています。

今後、計画の具体化や開催に当たっては、ますます多くの会員の方々のご協力が必要です。

会員全員が何らかの形で「JID室内デザイン学校」に参加いただけるように、会員一人ひとりのデザインスキルとメソッドの発信の場として、また、各地域セミナー・ツアー・ワークショップなど、各地での「室内デザイン学校」は、子供達からプロまで、これからのインテリアデザインの「原点」—こころのデザイナー—を探るなど、これまでにない「学校」を計画中です。

会員相互の交流の中で、各支部・各地域の魅力を体感しながら、—いつでも、どこでも、教え教わる、みんなのインテリアデザイナー—のユニークで楽しい学校を企画したいと思っています。それには、地元会員の方々の知識・情報や運営等のお力が是非とも必要なのです。全国の会員の皆様、室内デザイン学校委員会へご参加ご協力をお願いいたします。

★50周年記念事業のこのようなチャンスに全員で盛り上がりませんか!!!

(お問合せ・お申込みは、JID本部事務局 JID室内デザイン学校委員会まで)

本部報告

国際委員会

担当理事：酒井 正人
委員長：小野 由記子

IFI主催 WING 2007 参加報告

木村 戦太郎（文化女子大学 住環境学科教授）

文化女子大学住環境学科インテリアデザインコースの4年生6人が、7月3日から12日まで韓国の釜山市で開催された国際インテリアデザインワークショップ“WING 2007”に参加しました。

“WING”とはWORLD INTERIOR FOR THE NEW GENERATIONの頭文字で、学生や若いデザイナーたちが未来のデザインを共に考え、大きな未来に羽ばたくという意味です。釜山では、世界の若者105人が10日間の合宿を通して「水」をテーマに、デザイン表現に取り組みました。参加者は7グループに分けられ、文化女子大から参加した学生達もバラバラに別れて夫々のグループで活動しました。

各グループはidentity, abilityなど個別のTopicを持ち、助教授クラスのリーダー・サブリーダーにTC二人が付く体制で、講義を聴講し、コンセプトメイキングやデザイン提案を、板書・ジェスチャー・スケッチなどで行いました。デザイン展開の段階では、試作に使う素材や道具の買出し、モデリングなどでチームメイトと協力しました。

学生達は、公用語である英語に苦しみながらも夫々に頑張り、放課後の交流や、古都慶州への研修旅行などを通じて仲間との友情を育み、連帯感を深めていった様です。最後のFarewell Partyでは、全員が別れを惜しんで泣いたそうですが、それだけ濃い10日間だったと思われます。学生達は、未来のデザインに繋がるコラボレーションを重ね、得難い何かを掴んで帰って来た様です。以下、参加学生の瑞々しい感想例です。

大澤明代：Workshopに参加して私はとても素晴らしい経験をしました。何と言っても一番の思い出は私たちのグループがBest Awardを獲得したことです。作品タイトルは「We are very fragile」水は儚いものというイメージからデザインを考えました。言葉が通じなくて難しいこともありましたが、友達の支えがあって乗り越えることができました。釜山で出会った友達是一生の宝物です。

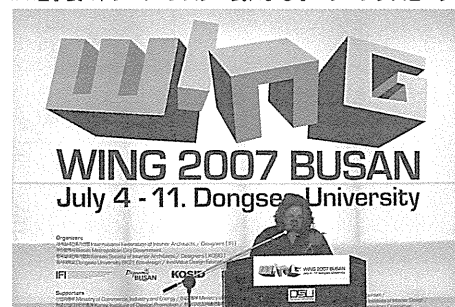
李 ギリ：今回のWorkshopは、生命の根源と同時に無限な可能性を意味する‘水’を主題に行われました。そして七つのグループに分かれ、そのテーマに従った作品を作り上げました。世界各国から参加した学生達

は、顔の色から言葉、考えまで、違うところが本当に多く、アイデアを生み出す手順と方法までも異なっていて、時にはトラブルにもなりました。しかし今考えて見れば、そのすべてが勉強になりました。お金では買えないとても良い経験だったと思います。



大澤さんのグループが提案した作品—水の壊れ易さを表現した

IFI理事長マドレーヌ・レスター氏によるオープニングスピーチ



さよならパーティー

本部報告

総務委員会

担当理事：丸谷 芳正
委員長：井出 昭子

JIDビジネスパートナーズへの期待

本部総務委員会 伊藤 公一

JID ビジネスパートナーズも、早いもので、第1回目の参加企業更新時期を迎えることになりました。ご理解、ご協力いただきました多くの正会員の皆様、参加いただきました賛助会員の皆様に、感謝申し上げます。リポートも今回で3回目になりますが、より利用しやすいシステムとしてのビジネスパートナーズの普及活動の一環として、今後も継続していきたいと思ひます。

JID BUSINESSPARTNERS

サイレントグリス株式会社 豊田 彰

賛助会員として JID ビジネスパートナーズに参加させていただいているサイレントグリスでございます。

弊社はスイスに本部を置く Silent Gliss 社の日本法人として 1982 年の創業以来 25 年にわたり、窓周りにこだわりを持つ多くの建築家、インテリアデザイナー、プランナーの方々からご支持をいただいております。

Silent Gliss 社は世界で初めてアルミ製カーテンレールを開発した企業であり、現在では世界のカーテンレールとウィンドウトリートメントのトップブランドとして、ユニークで高品質な製品を市場に提供し続けています。

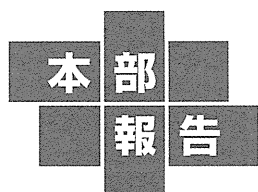
賛助会員として JID に登録させていただいてから、まだ日が浅く、会員の皆さまに対してこれからどのような形

でお手伝いできるのか、と考えていた矢先、2006 年夏、「JID ビジネスパートナーズ」という画期的な制度がスタートしました。そして本部総務委員会の方々が苦労して作られた基本理念に賛同した弊社は、即座に協力企業として参加登録させていただきました。

残念ながら、まだお問い合わせが一件あったのみで、実質的なお取引は成立していませんが、いずれこの制度が会員の皆さまの隅々にまで認知され、また価値が理解された時、本来の目的に向けて一気に動き出すのではないかと期待しているところです。

私は、この制度は他に誇る素晴らしい制度だと感じています。なぜなら会員の皆さまの側、賛助会員（企業）の側、どちらから見ても利便性、経済性、効率性を期待でき、特に将来を担う若い新入会員の方の扶助を念頭に置いた制度となっているからです。

今後、この制度に登録協力する賛助会員数がさらに増加し、また会員の皆さまによる制度利用が日常的に活発化することによって、JID 活動そのものの新陳代謝が促進され、活性化し、ますます協会が発展して行かれることを願っております。



選考委員会

担当理事：岩倉 営利
委員長：木村 戦太郎

2008 年 JID 賞ビエンナーレ

応募者数のご報告と選考プロセスについて
選考委員会 委員長 木村 戦太郎

●応募総数の前回との比較

今回の応募状況も前回同様に出足が悪く、6 月半ばを過ぎても纏まった数値に届かない有様で、前回の結果が良かっただけに本当に気を揉みました。結局、締切り迄の数日間に雪崩れ込む様に応募があり、以下の数字となりました。尚、応募者（社）数は 133 で、前回同様に複数応募された方々が居られることを示しています。

- ・インテリアスペース部門 …………… 147 点
- ・インテリアプロダクト部門 …………… 34 点
- ・インテリア研究・著作・業績部門 …… 6 点（計 187 点）

前回の応募総数は 236 点で、合計では今回の応募数を 49 点上回っていますが、応募対象期間が 3 年間でした。単純比較すると、前回の応募数は 1 年分 78.6 点、2 年間に直すと 157.2 点となり、今回はそれを約 30 点上回ったと考えられます。

従って今回の応募数は昨年より向上したと考えて良い訳で、ビエンナーレにしたことが様々に働いて、この結果に繋がっているのではないかと考えています。

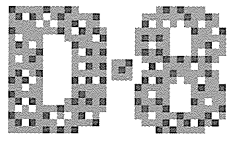
●選考プロセスについて

選考プロセスは、書類選考による「一次審査」、これに残ったものを現地・現物調査する「二次審査」、そして二次審査・調査資料を踏まえて「最終審査」を行います。現地調査では公正・万全を期して、複数委員による調査と報告を行うことにしています。

8 月 9 日の第 1 回書類選考には、選考委員全員が出席して審議が行われました。今回選考を行った感想は、応募作品の内容が前回よりおしなべてレベルアップした、というものです。これは前回から継続している殆どの委員の感想でもありました。ビエンナーレにしたことで、応募者にとっても二年を一区切りとして応募作品を選択出来て優秀作品が集まり易い、我々主催側も二年単位で広報・選考・事後報告に予算も手間も掛けられる。これらが程良い関係、巡り合わせなのではないか、JID 賞にとってはビエンナーレの方式が適している様だと考えています。

次の書類審査で、現地・現物調査対象作品がさらに絞り込まれ、調査担当委員の選任を行い、先方との日程調整等を踏まえて調査を実施します。

これからも選考委員会では、最終選考に向けた気の抜けない活動が続きます。



REPORT

D-8 ジャパン・デザイン・ミュージアム (略称JDM) 構想について

吉良 ヒロノブ 理事

会員の皆様に D-8 ジャパン・デザイン・ミュージアム構想についてお知らせする前に「D-8」とは何かを説明しなければなりません。

「D-8」とは、経済産業省の所管団体であるデザイン関連 8 団体が集まった「日本デザイン団体協議会」です。

構成団体

JIDA(社)日本インダストリアルデザイナー協会

DDA(社)日本ディスプレイデザイン協会

JCDA(社)日本クラフトデザイン協会

JPDA(社)日本パッケージデザイン協会

JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会

JJDA(社)日本ジュエリーデザイナー協会

SDA(社)日本サインデザイン協会

JID(社)日本インテリアデザイナー協会

関連 8 団体は 1950 年代から日本の暮らしと産業、文化に関するそれぞれの専門領域で活動を行ってきました。D-8 はこれら 8 つの社団法人が集まった唯一の協議会であり、8 団体が個々の活動を基盤としながら相互の領域を超えるデザインの課題に対応するために結成されています。

JID が創立 50 周年を迎えるのと同じように、其々の団体がおよそ 50 年の歴史を持っており、歴史的節目に経済産業省の指導の基に三年前から「ジャパン・デザイン・ミュージアム構想」に取り組みました。

ジャパン・デザイン・ミュージアム構想のコンセプトより賢く、楽しく、美しく暮らすための知恵、作法、そして技……。

「デザイン」という言葉と出会うずっと以前から日本人は今日のデザインに通ずる創造行為を展開してきました。そして、近代産業社会の所産である「デザイン」と出会うおおよそ半世紀、日本人は欧米のデザインを範としつつ一方で自らの伝統に立ち返り社会、生活、産業の発展とともに膨大なデザインを生み出してきました。その日本のデザインに今、世界が注目しています。もとより伝統的な日本のデザインの美学、其の手法にはモダンデザインに通底するさまざまな要素があります。一方

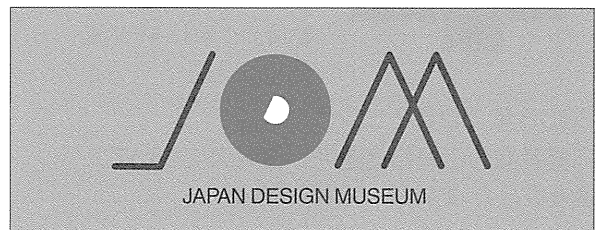
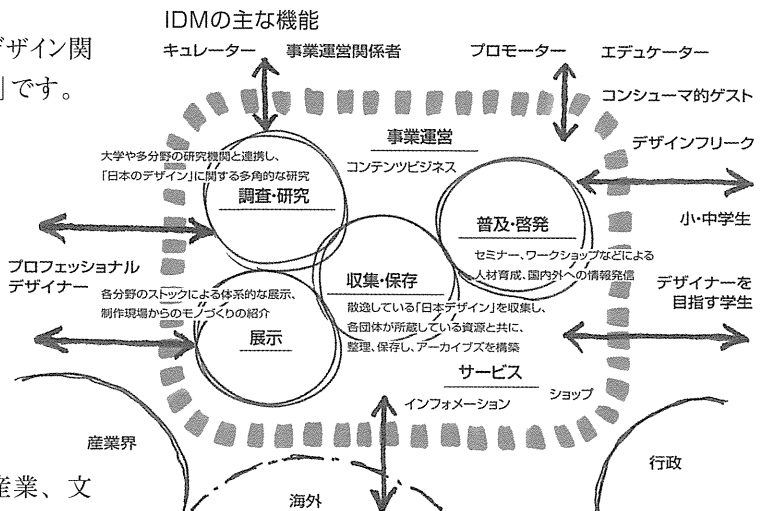
で日本独自のポップな感性は世界の人々を瞠目させる刺激的な表現を生み出してきました。

そして何より日本のデザインには人類共通の未来を指し示す重要な理念が潜んでいます。

しかし、こうしたデザインの保存、研究は著しく立ち後れています。8 つのデザイン団体の集合体「D-8」はデザイナーである私たち自身がその責務を果たすべき時代が来ていることを実感しています。

日本のデザインをストックし、アーカイブ化すること。そして、その意味を問い、国内外に発信し、新たな価値創造に結びつけていくこと。

真の「デザインの時代」を担うために「D-8」は「ジャパン・デザイン・ミュージアム」の実現を目指します。



事業化のプロセス

第 1 ステップは、ミュージアムのコンセプト、事業方針の確定。(すでにほぼ終了)

第 2 ステップは、パイロットプランによる展示・啓発・普及活動の始動とデジタルアーカイブ化。

第 3 ステップは、ミュージアム設立を視野に入れた企画展の実施と調査・研究機能の充実。

第 4 ステップは、「日本デザイン」を収集・保存し、これらを管理・運用し、デザイン創造拠点としてのミュージアムの設立。

といったプロセスを持ち実現に向け、「D-8」は動いています。

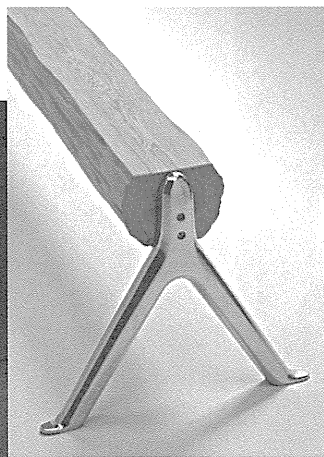
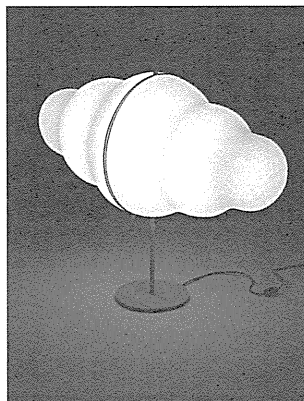
2007 年 9 月 22 日に記者発表を行い、2008 年度に都内会場でパイロット・ミュージアムを行う予定です。

MEMBER'S SALON

JIDNewsを彩る会員情報の交流サロンです。メッセージやレポートあるいはエッセイなど、自由で楽しい会員の声をお寄せください。(原則として1,000字以内+写真1~3枚程度)

●北山杉(京都府)

600余年に亘って、京都北山で育て続けてきた北山杉の新しい使い方をベンチとして提案。脚はリサイクル可能なアルミニウム。→



●AOYA 2005年(鳥取県)↑

シェードは、鳥取県の因州和紙を使い、立体漉きの技法で球状に漉いた新しい和紙。長い伝統に培われた技と現代技術の新しい造形。継ぎ目無く均一に漉かれた、美しい自由曲線を持った立体漉き技法の特徴を活かしている。

●ARITA nanakura HANAシリーズ 2002年(有田焼)
「料理人のキャンバス」をコンセプトにいろんな形の器の組み合わせを楽しんだり、四季の食材を彩りよく盛り付けたり、料理人が自由にクリエイション出来る真白な器。



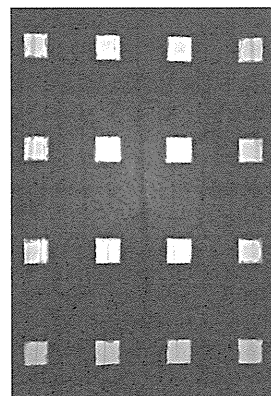
KITA'S collection 拝見

関西事業支部 八十常充

2007年8月3日から28日まで大阪天満のGALLERY animaで「KITA'S collection」が開かれました。

これは今年4月のミラノサローネ期間中に発表された喜多俊之氏の新作展で、永年のライフワークとして取り組んでいる、日本の伝統工芸職人とのコラボレーションによる新作と新素材を交えた数々です。

展示の一部をご紹介します。

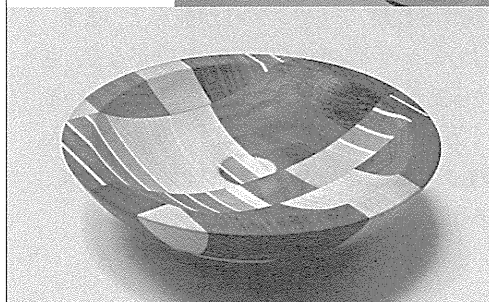
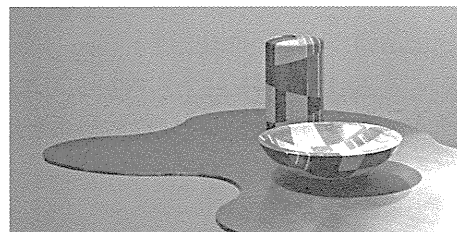


●TAKO 1971年(岐阜県・福井県)

TAKOの誕生は35年前、当時日本の伝統工芸や地場産業は高度経済成長の陰で衰退の一途をたどっていた。1300年の歴史を持つ美濃和紙の手漉き職人とのコラボレーションでこの照明が生まれました。

●小田原寄木細工

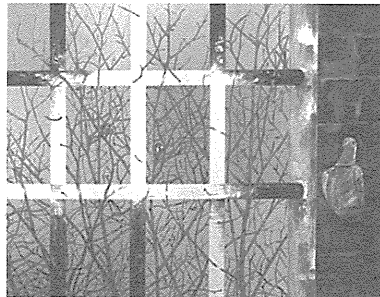
小田原・箱根地方に250年以上伝承される伝統工芸。木の持つ様々な自然の色合いを幾何学模様組み合わせる寄木細工の技を使った器や小物箱。本物の存在感が暮らしを豊かに、楽しくします。



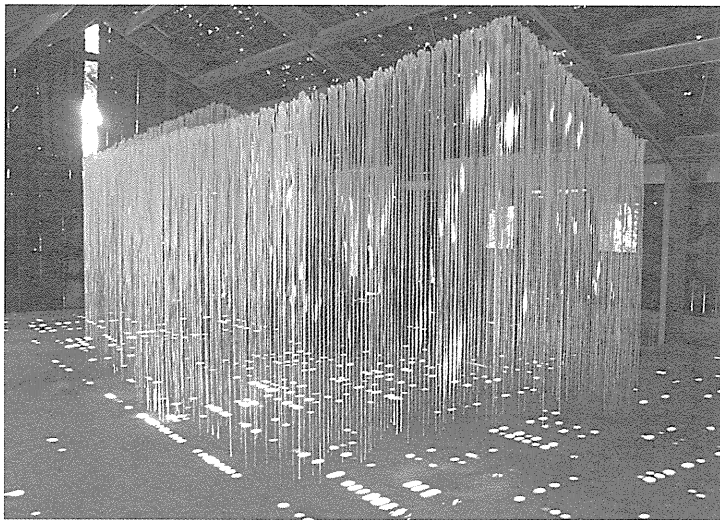
2007 SUMMER フィンランドの風

情報提供者：フィスカルス在住 Rutuko Sakata, ヘルシンキ在住 Sonny Nakai

関西事業支部 八十 常充



来年の夏、こんなフィスカルス芸術村と住宅フェア見学をコースに組んだツアーを計画したいですね!!



■フィスカルスでの展覧会

今年の夏も、フィスカルス芸術村では14回目を迎えるの展覧会が5月13日から9月30日まで2箇所の会場で行われています。

1つは、元銅工場を改装し展示場として使われている、コッパースミティ会場で、テーマは「POINTS of VIEW (見解)」です。

フィスカルスのアーティストと外部から招いたアーティストの共同作品、または合同作品で、視覚的、物理的、概念的な視点で制作されたアートやクラフトが並んでいます。テーマが示すようにデザインからアートへの境がなく、さまざまな視点から見る人を刺激し、頭の体操をしているようで、面白く笑ってしまうものもあれば、真剣に見入ってしまうものもありと、調和とコントラストが興味深く、とても価値のある展覧会でした。

2つ目の会場は元穀物倉庫、赤レンガと黒レンガで趣きのある2階建のグラナリ会場、テーマは「TRANSPARENT(透明性)」です。

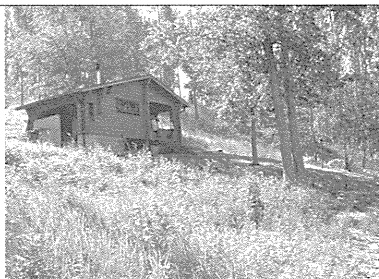
トランスパレントはテーマが示すように透明感のある、光を通すアート作品が集められました。素材もガラス、ビニール、フィルム、金属、布(ガーゼ)、氷などを使い、触れて見たくなる作品が多くありました。

中でも中国のBEILI LIUの作品は蠟と糸で構成され、中に入って見たくなる作品です。(写真左・下)

昨年9月から、世界のアーティストやデザイナーに門を開きグローバル化を図るため、アーティストレジデンス制度がフィスカルスで始まりました。

この制度は、レジデンスを約1ヶ月無料で提供し、滞在中に共同制作やワークショップ、講演などを行い、お互いの思想や友好関係を築くことを目的としています。

'06と'07年に世界から20名近くのアーティストが参加し、日本からも2名の参加がありました。今は希望者が多く受け入れの為の審査が必要となっています。



■住宅フェア

毎年夏にフィンランド国内の異なる都市で開催されている「フィンランド住宅フェア」を今年はハメーンリンナ市街地から10kmほど離れた森と湖が広がる敷地に約50棟が建てられて行われました。

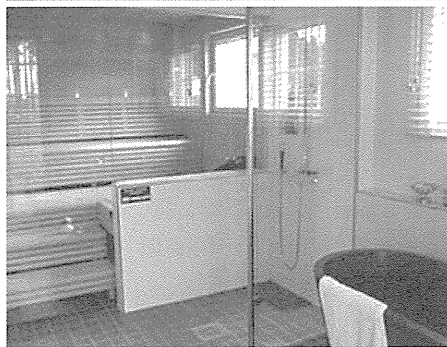
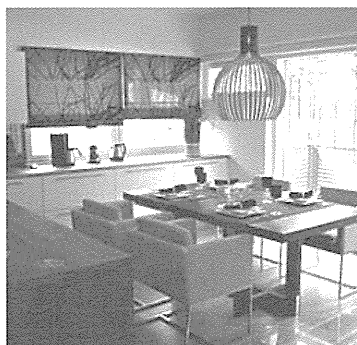
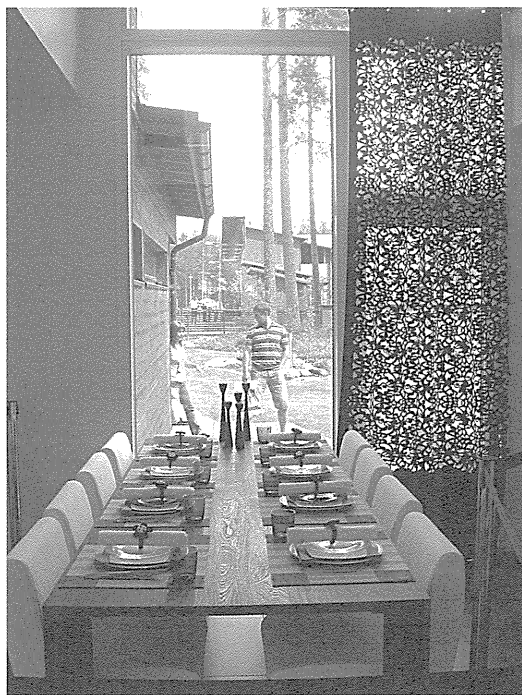
住宅フェアはフィンランドでも、最新の北欧住宅やインテリアのトレンド情報を肌で感じる事の出来る最適のチャンスとして、住宅を求めるヤング世代ばかりではなく、インテリアのアイデアを熱心に研究する主婦や学生、家族連れで賑わいました。

今年のインテリアのトレンドは、モノトーン(白・黒)とナチュラルな茶系を活かした落ち着いたインテリアが目につきました。清潔感に溢れた白い壁はどんな家具の色やデザインにもマッチします。

また、キッチン・食卓照明、リビングルームには、大きめの個性的なランプが使われています。

サウナの本場フィンランドでは、戸建住宅やマンションにサウナ付は常識ですが、庭に別棟で建てるサウナ小屋が新しいトレンドとなっています。

この様なサウナ小屋は脱衣室を含めて30m²ほどです。そして、テラスから庭と森へと続く屋外空間は、フィンランドならではの自然の豊かさに溢れています。



MASP Medical Amenity Support Project 「メディカル・アメニティ・サポートプロジェクト」 特別委員会 設立のご案内

関東事業支部 研究委員会 委員長 長岡 貞夫
プロジェクトリーダー 小野 由記子

●プロジェクトへの想い

現在、日本の医療分野では医療の質、安全に関したゆめめ改革が刻々と進められております。

医療や療養、介護の場においては治療上、運営上の機能性、効率性が優先されますが、残念ながらそこに安らかで快適な居心地の良さや美しさが伴う事は少ないという現状があります。インテリアデザインの効能は病の時のこころと身体の助けに少しでも成りえるのか否か? …YES。痛みをやわらげ、退屈をしのぎ、安心感を与え、やさしく穏やかな気持ちをいざない、そして希望や活力を見出せるようなメディカルアメニティ。

すなわち“Quality of Life”が、インテリアデザイナーの心と技で少しずつでも整えられるのであれば、惜しみなくサポートしたい。

そのような我々の想いを行動に移すべく、この度、JID 関東事業支部、研究委員会内に「メディカル・アメニティ・サポートプロジェクト特別委員会」を設立するに至りました。

●設立までの経緯

それは2005年に遡ります。私、小野の学生時代からの友人、NPO 法人医療ネットワーク理事長 人見祐氏から日本の医療環境の現状を伺うなかでインテリアデザインと医療環境の接点のきわめて少ないことを知りました。ごく特殊な例を除いては、インテリアデザインが医療環境の改善に貢献する例はまだ少ないのです。

医療関係者のアメニティ(インテリア)への認識も充分ではありません。

人見氏より、インテリアデザイナー集団として医療環境改善への活動が何か出来ないかと打診があり、そのような働きはJIDの有志が力を合わせて行うのが最適であろうと提案いたしました。

その後、私の所属する国際委員会のメンバーでこのプロジェクトの検討を重ねました。そして本企画を6月27日開催の平成19年度第二回理事会に提出し「メディカル・アメニティ・サポートプロジェクト」の発足は承認されました。同時に「メディカルアメニティ・サポートプロジェクト特別委

員会」は関東事業支部・研究委員会(委員長 長岡貞夫)に設置する旨決議されました。またプロジェクトリーダーは、小野が務めさせていただき旨承認されました。

●活動の主旨 医療とインテリア(アメニティ)

本委員会は、今後NPO法人医療ネットワーク支援センターとの連携体制を取りながら社会貢献活動を通し、将来の医療分野に相応しい新たなアメニティの研究と提案を行うことをその活動目的としております。

* NPO法人医療ネットワーク支援センターは内閣府認証特定非営利活動法人／厚生労働省認定 個人情報保護団体です。「保健、医療または福祉の増進を図る活動」「情報化社会の発展を図る活動」を2002年から続けています。www.medical-bank.org

●プロジェクト 企画案

☐メディカル・アメニティ・サポートに関する「リサーチ&研究」

☐海外の事例リサーチ

(IFI世界インテリアデザイン団体機構のネットワークを通して)

☐国内医療現場の視察

ex. 病室、カウンセリングルーム、談話室、小児病棟、付き添い親のステイハウス など

☐医療現場関係者との意見交換会開催

ex. 患者、医療従事者(医師、看護師 医療機器産業者)

☐リサーチレポートの作成と発表

☐出版企画

ex. オーレ・アンダーソン著“Room for Care”

☐レクチャー・シンポジウム

講師を迎え、インテリアデザインと医療の相互理解、交流を図る

生れたばかりの委員会です。現在は組織作り、プロジェクト概要作りをNPO法人医療ネットワーク支援センターと進めております。

準備が整いましたら説明会を開き、このプロジェクトに賛同いただき、活動・運営を共にしてくださる委員を公募いたします。

この活動がJIDならではの取り組みとして将来定着することをこころより願います。

皆様のご支援をいただけますようお願い申し上げます。

○連絡先

小野由記子 tel.03-5797-1155 fax.03-5797-1156
ono.oik@vesta.ocn.ne.jp

JID事務局 tel.03-5322-6560 fax.03-5322-6559
head@jid.or.jp

関東事業支部・交流委員会・ Myシリーズグループの活動内容

関東事業支部 交流委員会

MYシリーズグループリーダー 日方 一城

関東・交流委員会・MYシリーズグループは、JIDの活動を広く知ってもらおうと一般の方なども含め「自分(My)が使いたい物」をデザインし、またものづくり体験を試みよう、をテーマに参加者を募集。第1回の'01から今年'07まで6回実施してきました。

第1回、第2回はイスをデザインして上海の家具工場で作成し、作品チェックを兼ねた上海ツアー、東京にて作品展開催。第3回は「江戸職人と伝承の技」をテーマに、江戸切り子・江戸指物・東京三味線の職人達との対話。切り子・指物はガラスと箸を制作。第4回はアルミの鋳造による作品を完成させ、作品展を開催。第5回はガラス小物をパート・ド・ベールの手法で制作。第5回目の今回は「鉄の鋳造」です。

活動方針状況と月1の定例会

関東事業支部 広報委員会 委員長 石川 尚

私たち関東事業支部広報委員会は、本年度より情報委員会を「広報委員会」と改名し、目前にせまったJID創立50周年の碑とし、4月から毎月1回、計5回の定例会を重ねています。

年度始めに掲げた活動方針および活動状況は次の通りです。

■活動方針
目標：『支部ならびに支部会員のブランディングUP(ブランドを高める)』

01：KANTO ホームページの充実……JID 創立 50 周年記念の碑

- ・支部会員・賛助会員“全員”の紹介(プロフィール&ワーク)
- ・支部各委員会活動の紹介(プロフィール&ワーク)

02：取材・広報活動の充実

- ・各委員会活動の広報→ホームページ表記の定期化
- ・支部会員・賛助会員 広報便

03：ライブラリー JID KANTO の設立

- ・各委員会によるセミナー・展示記録の整理／リソースの準備

* JID50 周年記念事業との連動

■活動状況
01,02：「KANTO ホームページの充実」では、ホームペ

ージ(HP)内に会員・賛助会員紹介ページ(ミニHP)を設置する為の、表記内容&ページレイアウトを検討しています。

ただし、表記に関しては個人情報保護の問題等もありますので、今秋に会員・賛助会員あてに表記内容についてのアンケートを予定しています。

各委員会紹介、News など事業支部の委員会活動紹介につきましては、情報収集のスムーズ化を図るために、各委員会に広報担当者を設けていただきました。まずは、委員会プロフィール表記作業を開始しました。

各委員会広報担当者は次の通りです。

研究委員会：長岡貞夫 事業委員会：萩原多恵子
総務委員会：酒井正人 交流委員会：金杉哲男
広報委員会：石川尚

03：「ライブラリー JID KANTO の設立」では、諸先輩方々が綴られた『四方山話』の整理を行う予定です。

*「JID50 周年記念事業との連動」につきまして、現在各事業委員会において企画中です。概要が決定し次第、活動予定です。基本的にはホームページ表記によるサポート活動を中心におく所存です。

○新規広報委員会委員のメンバーを募集します。

JID50 周年記念事業も控え、今後益々ホームページの重要性が高まります。まだまだパワー不足の JID 関東ホームページ…ホームページの内容を充実することにより、さらなる JID 関東のブランド、会員&賛助会員全員のブランドを高めなければなりません。

ブランドを高めるということは、すべて協会・会員&賛助会員に様々な形で還ってくることでもあります。割高な会員費も JID 関東ホームページによるブランディングの確立で相殺され、新たなネットワーク・ビジネスチャンスの構築ができると言っても過言ではありません。当委員会ではまだまだ委員不足のため思うように活動できない状態です。随時、新規広報委員の募集をいたしておりますので、ご協力ください。

また、委員会活動へのご意見ご要望もお待ちしていますので、よろしくお願いいたします。

広報委員会メンバー

石川尚、早乙女明子、中嶋泉、菅野民子、
安田恵、中山智恵美、櫻井良樹

九州

KANSAI

KANTO

CHUBU

JIDNEWSKYUSHU

初めて<総会>に参加して

九州事業支部 菅原 聖子

6月27日、私がJID会員になって、初めての総会を迎えました。開催地は、私の地元<熊本市>。

役員会と総会の開催場所は、なんと弊社(株式会社コモデザイン)と決まりました。さっそく、事務局準備のお手伝いが始まりました。

総会には、JID50周年記念事業の一環で、岩倉副理事長の来熊が決定。せっかくの岩倉副理事長の総会参加とあり、講演会を開催して、賛助会員はじめ地域の学生さんを中心にした、たくさんのインテリア関係の方に来ていただくという企画が決まりました。

まず講演会場は、ご参加の方々の宿泊のホテルから徒歩5分近辺に会場を絞り込みました。(雨の時期でしたので、歩かないでいいように近場を設定)。具体的な準備はA4サイズの案内製作から始まりました。岩倉副理事長のプロフィール・お写真等を取り寄せて、弊社グラフィックデザイナーは、緊張しつつの作業となりました。そして、あれよあれよと当日を迎え、講演会には60名以上の参加が見込まれ、予定数以上の椅子の準備をすることになりました。

当日の11:00、弊社オフィスにて役員会は無事スタート。総会の打ち合わせ・準備。

その間にコモスタッフが岩倉先生を空港にお迎え。

(ドキドキの二人きりのドライブ)

総会風景



到着をお待ちしてランチ、そして、賛助会員を迎えて総会がスタートしました。最初に岩倉副理事長より50周年記念事業の概略の説明、その後、総会、50周年記念事業への支部参加については賛助会員の方の発言もあり、活発な意見交換がされました。

その間には岩倉副理事長のお仕事の歩みの一端も聞くことが出来、大変貴重な時間となりました。

さあ、副理事長の「生活デザイン考」講演会は九州電力ショールーム「イリス」カルチャールームにてスタート。

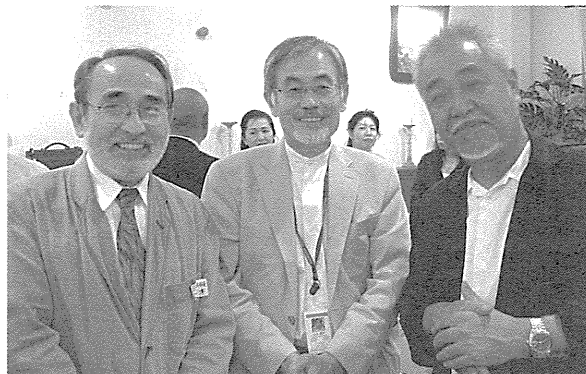
60名を越えるお客様をお迎えするのに会場設営・チケットのやりとり等、コロンバスさんのスタッフの方の協力も得て無事開催。

(残念ながら私は、その後の懇親会の準備でオフィスに残り、講演は聞けませんでした。)



講演会場(九州電力「イリス」)

懇親会 会場にて



講演会を終えたお客様方を弊社コモオフィス前のパーティー会場に誘導。福岡からは、九州産業大学・九州造形短期大学の先生・学生さん。熊本は崇城大学芸術学部生活デザイン科・熊本デザイン専門学校の先生・学生さんが講演会・懇親会に参加され、初めての合同交流会で、懇親がはかれたようでした。

協会に参加させていただいて間もなく、初めての「総会」がこのような大掛かりなイベントで、要領もわからないまま準備をさせていただき、どうなることかと本当に心配でした。九州の会員の皆様のご協力のおかげで無事、岩倉副理事長もお迎えでき、イベントも成功に終了できたと感謝し、胸をなでおろしたどたばたの一日でした。

ホームページも同時にリニューアルしました。

皆様是非ご覧下さい。

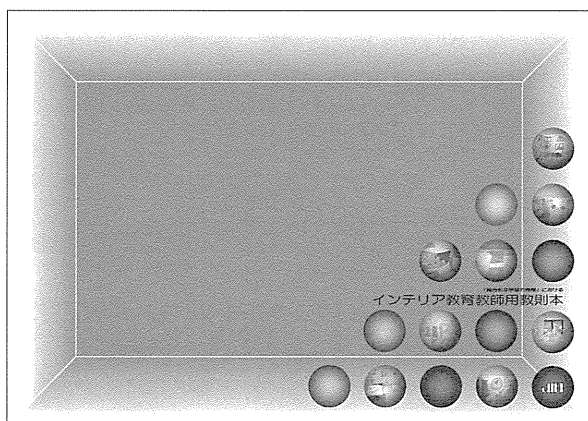
<http://www.jid-kyusyu.org>

第1回キッズデザイン賞 部門賞受賞

関西事業支部 支部長 清家 淳一

関西事業支部 研究委員会 委員長 鈴木 儀雄

2000年頃より研究を重ねてまいりました、『「総合的な学習の時間」におけるインテリア教育 教師用教則本』を第1回キッズデザイン賞※リサーチ部門に出展致しました。



その結果、部門賞(キッズデザイン協議会会長賞)を頂くこととなり、関西事業支部にとって大変名誉な事と思っております。『「総合的な学習の時間」におけるインテリア教育教師用教則本』は、本部教育委員会から始まり加藤力先生が指導的、積極的に関わられたもので、その後関西事業支部で引き継ぎ研究を重ねてまいりました。ご参加頂いた関西事業支部会員の皆様、JID-ACT kansai 諸君にお礼を申し上げるとともに、実験実習にご協力頂きました各学校関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

※ NPO 法人キッズデザイン協議会が主催するもので、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つデザイン(製品・コンテンツ・活動・リサーチなど)を顕彰し、表彰作品に「キッズデザインマーク」を付与するものです。

産官学民が「デザイン」の力を通じて生み出した、子どもたちのための成果について、社会的、文化的な価値の見地から公正な評価を与え、その優れたものの顕彰を通じて、産業・研究活動と子ども環境の高度化を図ることを目的としており、商品デザイン部門、建築・空間デザイン部門、コミュニケーションデザイン部門、リサーチ部門があります。

次なる研究として、すでに「セカンドライフについて」のアンケート調査を進めております。その折りにはご協力を宜しくお願い致します。

JID-ACT kansai 新入会員歓迎会

JID-ACT kansai 広報部 部長 山下 真美子

今年度は新入会員が多数入会した事を祝して、8月4日に天王寺の艦便フッドで新入会員歓迎会を行いました。参加人数は17名でしたが、新入会員の参加が少なかったのが残念です。今回の歓迎会では在籍会員がポートフォリオを持ち寄り、JIDの先生方に見ていただいたり、新入会員と共に就活や進路についての話し合う事を目的としました。当日は、就活の話題以外の話も飛び交いとても和気藹々とした歓迎会となりました。二次会は、顧問の鈴木儀雄先生の事務所をお借りし、わいわいと歓迎会では話せなかった人達と会話する事も出来ました。

現在、9月、10月に立てている企画に向けて動いています。この企画を期にJID-ACT kansai 全体で企画を盛り上げられるように出来ればと考えています。

事務局からのお知らせ

新会員 紹介 賛助会員

※賛助会員数66社(平成19年9月現在)

安藤建設株式会社

会員番号3196

〒100-8558 東京都千代田区内幸町1-1-1

帝国ホテル内 安藤建設現場事務所

Tel: 03-3508-0419 / Fax: 03-3580-3097

fukushima-hiroshi@ando-corp.co.jp

担当者: 建築本部第一設計部門 課長 福島 宏

推薦者: 高島屋スペースクリエイツ株式会社

コクヨオフィスシステム株式会社

会員番号3197

〒100-6018

東京都千代田区霞ヶ関3-2-5霞ヶ関ビルディング18F

Tel: 03-5510-4345 / Fax: 03-5510-4349

担当者: 企画部 近森 秀晴

推薦者: 川上 玲子

事務局からのお知らせ

会員異動

※「会員名簿」該当ページをご訂正ください

◆正会員

会員番号0986 石川 暢子 会員名簿・関東p.2
・勤務先住所 〒101-0061
変更 東京都千代田区三崎町3-3-10

会員番号0315 石黒 正範 会員名簿・関東p.3
・Eメール変更 gabononnon@nifty.com

会員番号0178 北原 進 会員名簿・関東p.5
・Eメール変更 info@kid-a.co.jp

新会員 紹介 正会員

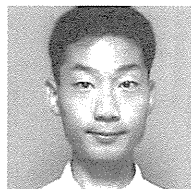
①会員名 ②会員番号(支部) ③推薦者
④勤務先・事務所 ⑤自宅



① 小林 雄二
こばやし ゆうじ

② 1275 (関東事業支部)
③ 渡辺 英行・峰尾 武

④ メックデザインインターナショナル インテリア部 部長
〒105-0014 東京都港区芝1-10-11
Tel: 03-6400-9052 / Fax: 03-6400-9952
yujikobayashi@mecdesign.co.jp
⑤ 〒227-0051 横浜市青葉区千草台28-31
Tel: 045-971-7655 / Fax: 045-971-7655
y_m_koba@db.dion.ne.jp



① 牧尾 晴喜
まきお はるき

② 1276 (関西事業支部)
③ 清家 淳一・峰尾 武

④ スタジオOJMM 代表
〒558-0014 大阪市住吉区我孫子1-8-23-110
Tel: 090-9999-4029
harukimakio@aol.com
⑤ 同上

会員番号1223 早乙女 明子 会員名簿・関東p.6
・社名、 Design Studio GAUDI
勤務先住所 〒150-0013
変更 東京都渋谷区恵比寿2-6-16#210

会員番号1190 酒井 忍 会員名簿・関東p.6
・自宅住所、 〒171-0032 東京都豊島区
電話変更 雑司ヶ谷3-22-21 T-スタイル目白202号
Tel/ Fax: 03-3987-7694

会員番号0463 寺原 芳彦 会員名簿・関東p.8
・Eメール変更 nrc17580@nifty.com

会員番号1198 平井 純 会員名簿・関東p.10
・自宅住所変更 〒120-0046
東京都足立区小台1丁目22-2-1118

会員番号0805 福沢 雄二 会員名簿・関東p.10
・Eメール変更 fukuzawa@cb4.so-net.ne.jp

会員番号0650 丸山 芳子 会員名簿・関東p.12
・自宅住所、 〒372-0824
電話変更 群馬県伊勢崎市柴町953-103
Tel: 0270-32-1616

会員番号0818 小宮 三辰 会員名簿・中部p.14
・Eメール変更 m-komiya@cg8.so-net.ne.jp

会員番号1146 丸谷 芳正 会員名簿・中部p.15
・Eメール変更 maruya@tad.u-toyama.ac.jp

会員番号1211 上中 洋人 会員名簿・関西p.16
・勤務先住所、 〒552-0014
電話、FAX 大阪府大阪市港区八幡屋3-18-4
Eメール、 Tel: 06-4395-7676 / Fax: 06-4395-7677
変更 uenaka@index-id.jp

会員番号0906 七條 健 会員名簿・関西p.17
Eメール変更 qq5983g9@vanilla.ocn.ne.jp

会員番号0009 福岡 喜久雄 会員名簿・関西p.18
・勤務先住所、 〒565-0862
電話変更 大阪府吹田市津雲台 1-1-4-608
Tel: 090-3273-5608

会員番号1272 井上 桂 関東・JID News 236・p.19
・Eメール追加 inoue@la-vita.jp

JID news

企画・編集：本部情報委員会

JID News 担当理事 清家淳一

JID News 委員長 八十常充

// 関東事業支部 佐藤健一

// 中部事業支部 小林修

// 関西事業支部 塚口眞佐子

// 九州事業支部 下田隆

——あとかき——

今年の猛暑はモーたくさん!!

今年、日本列島の気温は各地で過去の記録を更新したようです。

埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市が40.9度を記録、8月の平均気温で最も暑かった大阪が「暑さ日本一」となり、東京都心の平均気温も29.5度で、これも観測史上最も暑かったようです。

平均気温を押し上げている原因は、最低気温が高くなっているためで、いわゆるヒートアイランド現象の要因が大きい。

デザインは人間に快適さを視覚的に見せている行為ですが、生活の基本条件である自然現象が崩れてしまうと、デザイン云々ではなくなってしまう。

近代社会がつくりあげた文明がこのさまで進歩なのか…と、もう一度「原点」に戻って考え直すしかない、つくづく思う今年の夏でした。

八十 常充

□ 次号スケジュール

・編集(企画)会議 11月6日(火)

・原稿締切日 11月末日

・編集(校正)会議 12月18日(火)

・発行日 12月末日

* member's SALON はみなさんからの投稿をお待ちしています。デザイン情報、ご意見、エッセイや地域での情報などをお寄せ下さい。

No.237

発行日：平成19年9月30日

編集デザイン：西尾直事務所
印刷：株式会社岡本印刷所